

蒲生海岸の砂浜の堆積について（3）

■ 蒲生海岸の砂浜の堆積状況について

蒲生海岸の堆積の変化を確認した。（調査地点はFig1参照）七北田川河口付近では、10月の調査で堆積によって見ることのできなくなった護岸ブロックが今回の調査（2月）で、堆積した砂が侵食され、再び露わになっている（Fig2とFig3）。また、調査地点2では、堆積後（盛り上がった後）、削られた跡（崖状の部分）が今回の調査では見ることができなくなってしまっている（Fig4とFig5）。これは、風や波などによって侵食を受けたためであると考えられる。

これまでの調査から、堆積活動が安定しているように見られる海岸付近でも、堆積と侵食が常に行われていることが推測される。



Fig.1 調査地点（津波以前の地形）
 ※矢印は撮影した方角



Fig.2 2014年10月2日
 調査地点1から西側を望んだところ



Fig.3 2015年2月11日
 調査地点1から西側を望んだところ



Fig.4 2014年9月5日
 調査地点2から仙台新港を望んだところ



Fig.5 2015年2月11日
 調査地点2から仙台新港を望んだところ
 （花田 義輝）